

28 飾磨橋東地区



なかしまてんまんじんじや
中島天満神社のあたりは、江戸時代に新たに田畑にするため開拓されたところです。「大森新田」のほかにとろんな新田が開拓されたのが調べてみましょう。



しらべたこと、わかったことが書いてみよう!



えびすのみやてんまんじんじや 恵美酒宮天満神社

漁場の神さまとして戎の神をまつたので恵美酒宮といいます。その後、天満宮を招いてこの名前になりました。京都の吉文字屋孫作が寄付した石灯籠は、元禄11年(1698)のもので、狛犬は、尾道の石工・嶋屋勘十郎がつくったもので、天保15年(1844)のもので。

行った日

えびすのみやてんまんじんじやしゅうきれいたいさい 恵美酒宮天満神社秋季例大祭

「恵美酒宮祭り」は「台場練り」で有名です。大屋台は80人以上の練り子がかつぎますが、神さまに屋台を奉納する時は、より優れた力の持主24人が、練り子にかわって台場を肩でかつぎます。

行った日

おおもりげんぞうおうきこうひ 大森源三翁紀功碑

大森源三は、文化8年(1811)三木勘兵衛(勘兵衛新田の開拓者)の次男として生まれ、大森家の養子となりました。天保10年(1839)から24年かけて「大森新田」(約40町歩)を開拓しました。源三が亡くなった後に、村人たちによって紀功碑が建てられました。

行った日

かめやまほんどくじもんぜん 龜山本徳寺門前

お寺の本堂が焼けた時、播州に住む信者たちの強い願いで京都から移されてきました。「播州真宗年表」などには、柱材・床材、屋根瓦まで、船で飾磨津に運ばれ、飾磨街道を通り龜山に運ばれたと書かれています。工事は2年かかり、明治6年(1873)に完成しました。

行った日

しよだいしかましちやう どうぞう 初代飾磨市長の銅像

岡上彦三は、明治13年(1880)8月に大浜で生まれました。明治45年(1912)、飾磨郡会議員になり、その後、飾磨町会議員、飾磨町長(昭和6年~15年)を務めました。昭和15年(1940)に「飾磨市」となった後は、初めての市長も務めました。

行った日

ちほうじ 知宝寺

もとは光明寺といい、天台宗のお寺でした。寛和元年(985)、花山法皇が書写山へ行った時に立ち寄られ、当時は御幸堂ともいいました。その後、建永2年(1207)法然上人が土佐へ流される途中に立ち寄られ、浄土宗のお寺になりました。

行った日

てんまんじんじや 天満神社(飾磨区中島)

まつられているのは菅原道真です。いつつくられたかは分かりません。飾磨の恵美酒宮から分霊を招いたといわれています。蓮浄寺の門前にありましたが、元禄7年(1694)に建て直された時に今の場所に移りました。「播州名所巡覧図絵」という本に「濱の天神という 樓門・大鳥居あり」と書いてありますが、今では楼門はありません。

行った日

なかしまてんまんじんじやしゅうきれいたいさい 中島天満神社秋季例大祭

昭和29年(1954)までは、大屋台1台とだんじり1台で秋祭りが行われていました。昭和51年(1976)に小屋台と中屋台を新しく作り、古いだんじりとともに屋台を繰り出す秋祭りが復活しました。平成6年(1994)には大屋台も新しくなりました。

行った日

やくしじ 薬師寺(東光院)

いつつくられたかは分かりません。「飾磨薬師寺」とよばれ、七堂伽藍があったころもありました。その後、赤松氏からお寺の領地200石などが寄附されました。秀吉の信仰も厚く、守護寺にもなりました。正徳3年(1717)恵賢がお寺を復興し、東光院と名前が変わりました。戦争で焼けた後、昭和28年(1953)に建て直されました。

行った日

れんじやうじ 蓮浄寺

『飾磨郡誌』という本には浄土真宗本願寺派のお寺と書かれています。永正14年(1517)に開かれました。お寺に名前がついたのは慶長2年(1597)だったようです。江戸時代には2回も火事があったそうです。

行った日